St. Luke's International University Repository

聖路加看護大学年報: 2008年度（平成20年度）

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 公開日: 2010-01-08 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/10285/4728

This work is licensed under a Creative Commons Attribution-NonCommercial-ShareAlike 3.0 International License.

Ⅲ 教育課程

【学　　部】

１．教育課程（表１、２）

教育課程については、各部門代表者（教養基礎教育は各科目担当者）からなるカリキュラム運用委員会がその検討・運用の任を持ち、教授会の決定により進められている。現在のカリキュラムは、1995年度入学生より適用し、現在までカリキュラム評価により見直しを行い、2003年度には一部カリキュラムの改正、2006年度には養護教諭一種免許状取得課程の申請、2007年度助産課程の廃止、2008年度からの保健師助産師看護師学校指定規則の改正による変更承認申請等を経て現在のカリキュラムとなっている。

さらに、教員の満足度等のカリキュラム評価結果から、カリキュラムの見直しが必要となり、カリキュラム改訂を行うことが決まり、カリキュラム2010の小委員会を立ち上げ、活動を開始した。2010年度入学生からカリキュラムの改正を行うには、2009年８月までに文部科学省への申請が必要となるが、2009年２月の時点でカリキュラム改訂の方向性について学内で合意が得られず、2010年度からの改訂は見送られ、2011年度改訂を目指すことになった、

学士編入生のカリキュラムについては、12年目となり、調整を行いながら徐々に改善され軌道にのりつつある。

また、学士編入生の養護教諭一種免許状の取得については、３年間では履修できないが、すでに教職課程免許状を取得している者については、個別に対応していくこととしている。

学生への成績開示と問い合わせ期間の設置や、定期試験の採点ミス防止のため、教員向けスケジュール表等、業務上の事項をまとめた教務関係マニュアルを作成し、マニュアルに則り定期試験を行うことができ、特に問題は起こらなかった。

表１　教育課程および開講学年予定表（2008年度入学生）

授業科目			㊙ 人文 ㊥ 社会 ㊟ 自然	単位数 必修	単位数 選択	１年 前期	１年 後期	２年 前期	２年 後期	３年 前期	３年 後期	４年 前期	４年 後期
教養科目	人間と文化	キリスト教概論	㊙	2		✓							
		キリスト教倫理	㊙		2		✓						
		音楽	㊙		2	✓		✓					
		美術	㊙		2	✓		✓					
		文学	㊙		2	✓		✓					
		哲学	㊙		2		✓						
		倫理学	㊙ ㊥		2			✓		✓			
		宗教学	㊙ ㊥		2			✓		✓			
	人間と社会	歴史学	㊙ ㊥		2	✓		✓					
		法学（日本国憲法）	㊙ ㊥		2		✓		✓				
		教育原理	㊙ ㊥		2	✓							
		教育方法の研究	㊙ ㊥		2		✓						
		教育課程論	㊙ ㊥		2							✓	
		社会学	㊙ ㊥		2	✓							
		心理学	㊙ ㊥		2	✓							
		教育制度論	㊙ ㊥		2				✓				
		カウンセリング概論	㊙ ㊥		2				✓				
		教職概論	㊙ ㊥		2				✓				
		道徳及び特別活動論	㊙ ㊥		2							✓	
		生徒指導論	㊙ ㊥		2							✓	
		女性学	㊙ ㊥		2			✓					
	人間と言語	国語表現法	㊙		2				✓				
		総合英語			2		✓						
		英語Ⅰ		2		✓	✓						
		英語Ⅱ		2				✓	✓				
		英語Ⅲ—A			1		✓						
		英語Ⅲ—B			1			✓					
		文献講読—A			1				✓				
		文献講読—B			1					✓			
		英語表現法Ⅰ—S		1		✓	✓						
		英語表現法Ⅰ—W		1		✓	✓						
		英語表現法Ⅱ—S		1				✓	✓				
		英語表現法Ⅱ—W		1				✓	✓				
		英語表現法Ⅲ—S			1				✓				
		英語表現法Ⅲ—W			1					✓			
		異文化コミュニケーション	㊙ ㊥		2					✓			
		ドイツ語Ⅰ			2	✓	✓						
		ドイツ語Ⅱ			2			✓	✓				
		中国語			2	✓	✓	✓	✓				

授業科目			㊇ 人文 ㊉ 社会 ㊐ 自然	単位数		1年		2年		3年		4年	
				必修	選択	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
	人間と情報	統計学	㊉ ㊐		2	✓							
		情報科学	㊉ ㊐		2	✓		✓					
		統計学演習	㊉ ㊐		2								✓
		情報処理演習	㊉ ㊐		2	✓	✓						
教養科目	自然環境人間と	生物学	㊐		2		✓						
		物理学	㊐		2	✓							
		化学	㊐		2		✓						
	体育	体育Ⅰ			1	✓	✓						
		体育Ⅱ			1	✓		✓		✓		✓	
	総合科目	総合科目Ⅰ（対人関係論）	㊇ ㊉		2	✓							
		総合科目Ⅱ（健康科学）	㊐		2		✓		✓				
		総合科目Ⅲ（生活科学論）	㊉ ㊐		2	✓	✓	✓	✓				
		総合科目Ⅳ（国際交流演習）	㊉ ㊐		1								
		教職総合ゼミ	㊉ ㊐		2				✓				
基礎科目	人間と健康	生涯発達論Ⅰ		2			✓						
		生涯発達論Ⅱ		2			✓						
		形態機能学		4		✓							
		形態機能学演習		2			✓						
		生化学		2		✓							
		栄養学		1			✓						
		家族関係論		2				✓					
		集団力動論		1				✓					
		ヒューマンセクシャリティⅠ		1					✓				
		ヒューマンセクシャリティⅡ			1				✓				
		生命倫理		1					✓				
	環境と健康	環境論Ⅰ		2		✓							
		環境論Ⅱ		2			✓						
		疾病・治療概論		2				✓					
		疾病・治療各論		3					✓				
		保健医療福祉政策論		1						✓			
		保健医療福祉行政論		3				✓					
専門科目	看護の基本	生活と健康		2		✓							
		看護学概論		2		✓							
		看護援助論Ⅰ		3				✓					
		看護援助論Ⅱ		3			✓						
		看護援助論Ⅲ		3			✓	✓					
		看護援助論Ⅳ		1				✓					
		看護提供システムⅠ		2					✓				
		看護提供システムⅡ			1							✓	
		看護技術論			1							✓	

授業科目			㊙人文 ㊥社会 ㊤自然	単位数 必修	単位数 選択	1年 前期	1年 後期	2年 前期	2年 後期	3年 前期	3年 後期	4年 前期	4年 後期
専門科目	人間と環境の相互作用の保持・強化	生涯発達看護論Ⅰ		2				✓					
		生涯発達看護論Ⅱ		2					✓				
		生涯発達看護論Ⅲ			1							✓	
		家族発達看護論Ⅰ		3						✓			
		家族発達看護論Ⅱ			1							✓	
		地域看護論Ⅰ		2					✓				
		地域看護論Ⅱ		3						✓			
		地域看護論Ⅲ			1							✓	
		学校保健			2					✓			
		養護概説			2							✓	
	人間と環境の相互作用の修正	慢性期看護論Ⅰ		4						✓			
		慢性期看護論Ⅱ		3						✓			
		慢性期看護論Ⅲ			1							✓	
		リハビリテーション看護論Ⅰ		2						✓			
		リハビリテーション看護論Ⅱ			1							✓	
	人間と環境の相互作用の回復・保護	急性期看護論Ⅰ		3					✓				
		急性期看護論Ⅱ		2					✓				
		急性期看護論Ⅲ			1							✓	
		ターミナルケア論		3								✓	
	臨地実習	臨地実習 A		2							✓		
		臨地実習 B		2							✓		
		臨地実習 C		2							✓		
		臨地実習 D		2							✓		
		臨地実習 E		2							✓		
		臨地実習 F		2							✓		
		臨地実習 G		3							✓		
		総合実習			2							✓	
		養護実習Ⅰ			3							✓	
	看護学統合	看護研究Ⅰ		2								✓	
		看護研究Ⅱ			3								✓
		総合看護			3								✓
		看護政策論		2									✓
		看護ゼミナール			1							✓	
	養護教諭1種に関する科目	養護実習Ⅱ			2							✓	
		計		105	110								

表２　教育課程および開講学年予定表（2006～2007年度入学生）

授業科目			人文 社会 自然	単位数 必修	単位数 選択	１年 前期	１年 後期	２年 前期	２年 後期	３年 前期	３年 後期	４年 前期	４年 後期
教養科目	人間と文化	キリスト教概論	人	2		✓							
		キリスト教倫理	人		2		✓						
		音楽	人		2	✓		✓					
		美術	人		2	✓		✓					
		文学	人		2	✓		✓					
		哲学	人		2		✓						
		倫理学	人 社		2			✓		✓			
		宗教学	人 社		2			✓		✓			
	人間と社会	歴史学	人 社		2	✓		✓					
		法学（日本国憲法）	人 社		2		✓		✓				
		教育原理	人 社		2	✓							
		教育方法の研究	人 社		2		✓						
		教育課程論	人 社		2							✓	
		社会学	人 社		2	✓							
		心理学	人 社		2	✓							
		教育制度論	人 社		2				✓				
		カウンセリング概論	人 社		2				✓				
		教職概論	人 社		2				✓				
		道徳及び特別活動論	人 社		2							✓	
		生徒指導論	人 社		2							✓	
		女性学	人 社		2			✓					
	人間と言語	国語表現法	人		2				✓				
		総合英語			1		✓						
		英語Ⅰ		2		✓	✓						
		英語Ⅱ		2				✓	✓				
		英語Ⅲ—A			1		✓						
		英語Ⅲ—B			1			✓					
		文献講読—A			1				✓				
		文献講読—B			1					✓			
		英語表現法Ⅰ—S		1		✓	✓						
		英語表現法Ⅰ—W		1		✓	✓						
		英語表現法Ⅱ—S		1				✓	✓				
		英語表現法Ⅱ—W		1				✓	✓				
		英語表現法Ⅲ—S			1				✓				
		英語表現法Ⅲ—W			1					✓			
		異文化コミュニケーション	人 社		2					✓			
		ドイツ語Ⅰ			2	✓	✓						
		ドイツ語Ⅱ			2			✓	✓				
		中国語			2	✓	✓	✓	✓				

授業科目			㋩ 人文 ㊟ 社会 ㊐ 自然	単位数		1年		2年		3年		4年	
				必修	選択	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
	人間と情報	統計学	㊟ ㊐		2	✓							
		情報科学	㊟ ㊐		2	✓		✓					
		統計学演習	㊟ ㊐		2								✓
		情報処理演習	㊟ ㊐		2	✓	✓						
教養科目	自然環境人間と	生物学	㊐		2		✓						
		物理学	㊐		2	✓							
		化学	㊐		2		✓						
	体育	体育Ⅰ			1	✓	✓						
		体育Ⅱ			1	✓		✓		✓		✓	
	総合科目	総合科目Ⅰ（対人関係論）	㋩ ㊟		2	✓							
		総合科目Ⅱ（健康科学）	㊐		2		✓		✓				
		総合科目Ⅲ（生活科学論Ⅰ）	㊟ ㊐		2								
		総合科目Ⅳ（生活科学論Ⅱ）	㊟ ㊐		2								
		教職総合ゼミ	㊟ ㊐		2				✓				
基礎科目	人間と健康	生涯発達論Ⅰ		2			✓						
		生涯発達論Ⅱ		2			✓						
		形態機能学		4		✓							
		形態機能学演習		2			✓						
		生化学		2		✓							
		栄養学		1			✓						
		家族関係論		2				✓					
		集団力動論		1				✓					
		ヒューマンセクシャリティⅠ		1					✓				
		ヒューマンセクシャリティⅡ			1				✓				
		生命倫理		1					✓				
	環境と健康	環境論Ⅰ		2		✓							
		環境論Ⅱ		2			✓						
		疾病・治療概論		2				✓					
		疾病・治療各論		3					✓				
		保健医療福祉政策論		1						✓			
		保健医療福祉行政論		3				✓					
専門科目	看護の基本	生活と健康		2		✓							
		看護学概論		2		✓							
		看護援助論Ⅰ		3				✓					
		看護援助論Ⅱ		3			✓						
		看護援助論Ⅲ		3			✓	✓					
		看護援助論Ⅳ		1				✓					
		看護提供システムⅠ		2					✓				
		看護提供システムⅡ			1							✓	
		看護技術論			1							✓	

授業科目			㊇ 人文 ㊥ 社会 ㊦ 自然	単位数 必修	単位数 選択	1年 前期	1年 後期	2年 前期	2年 後期	3年 前期	3年 後期	4年 前期	4年 後期
専門科目	人間と環境の相互作用の保持・強化	生涯発達看護論Ⅰ		2				✓					
		生涯発達看護論Ⅱ		2					✓				
		生涯発達看護論Ⅲ			1							✓	
		家族発達看護論Ⅰ		3						✓			
		家族発達看護論Ⅱ			1							✓	
		地域看護論Ⅰ		2					✓				
		地域看護論Ⅱ		3						✓			
		地域看護論Ⅲ			1							✓	
		学校保健			2					✓			
		養護概説			2							✓	
	人間と環境の相互作用の修正	慢性期看護論Ⅰ		4						✓			
		慢性期看護論Ⅱ		3						✓			
		慢性期看護論Ⅲ			1							✓	
		リハビリテーション看護論Ⅰ		2						✓			
		リハビリテーション看護論Ⅱ			1							✓	
	人間と環境の相互作用の回復・保護	急性期看護論Ⅰ		3					✓				
		急性期看護論Ⅱ		2					✓				
		急性期看護論Ⅲ			1							✓	
		ターミナルケア論		3								✓	
	臨地実習	臨地実習 A		2							✓		
		臨地実習 B		2							✓		
		臨地実習 C		2							✓		
		臨地実習 D		2							✓		
		臨地実習 E		2							✓		
		臨地実習 F		2							✓		
		臨地実習 G		3							✓		
		総合実習			2							✓	
		養護実習Ⅰ			3							✓	
	看護学統合	看護研究Ⅰ		2								✓	
		看護研究Ⅱ			3								✓
		総合看護			3								✓
		看護政策論		2									✓
		看護ゼミナール			1							✓	
	養護教諭1種に関する科目	養護実習Ⅱ			2							✓	
		計		105	110								

表３　教育課程および開講学年予定表（2005年度入学生）

授業科目			人文 社会 自然	単位数 必修	単位数 選択	１年 前期	１年 後期	２年 前期	２年 後期	３年 前期	３年 後期	４年 前期	４年 後期
教養科目	人間と文化	キリスト教概論	人	2		✓							
		キリスト教倫理	人		2		✓						
		音楽	人		2	✓		✓					
		美術	人		2	✓		✓					
		文学	人		2	✓		✓					
		哲学	人		2		✓						
		倫理学	人 社		2			✓		✓			
		宗教学	人 社		2			✓		✓			
	人間と社会	歴史学	人 社		2	✓		✓					
		法律学	人 社		2		✓		✓				
		教育学	人 社		2	✓							
		教育方法学	人 社		2		✓						
		社会学	人 社		2	✓							
		心理学	人 社		2	✓							
		応用社会学	人 社		2				✓				
		応用心理学	人 社		2				✓				
		女性学	人 社		2			✓					
	人間と言語	国語表現法	人		2				✓				
		総合英語			1		✓						
		英語Ⅰ		2		✓	✓						
		英語Ⅱ		2				✓	✓				
		英語Ⅲ—A			1		✓						
		英語Ⅲ—B			1			✓					
		文献講読 A			1				✓				
		文献講読 B			1					✓			
		英語表現法Ⅰ—S		1		✓	✓						
		英語表現法Ⅰ—W		1		✓	✓						
		英語表現法Ⅱ—S		1				✓	✓				
		英語表現法Ⅱ—W		1				✓	✓				
		英語表現法Ⅲ—S			1				✓				
		英語表現法Ⅲ—W			1					✓			
		異文化コミュニケーション	人 社		2					✓			
		ドイツ語Ⅰ			2	✓	✓						
		ドイツ語Ⅱ			2			✓	✓				
		中国語			2	✓	✓	✓	✓				
	人間と情報	統計学	社 自		2	✓							
		情報科学	社 自		2	✓		✓					
		統計学演習	社 自		2								✓
		情報処理演習	社 自		2	✓	✓						

授業科目			㊇ 人文 ㊉ 社会 ㊐ 自然	単位数		1年		2年		3年		4年	
				必修	選択	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
教養科目	環境人間と自然	生物学	㊐		2		✓						
		物理学	㊐		2	✓							
		化学	㊐		2		✓						
	体育	体育Ⅰ			1	✓	✓						
		体育Ⅱ			1	✓		✓		✓		✓	
	総合科目	総合科目Ⅰ（対人関係論）	㊇ ㊉		2	✓							
		総合科目Ⅱ（健康科学）	㊐		2		✓		✓				
		総合科目Ⅲ（生活科学論Ⅰ）	㊉ ㊐		2								
		総合科目Ⅳ（生活科学論Ⅱ）	㊉ ㊐		2								
基礎科目	人間と健康	生涯発達論Ⅰ		2			✓						
		生涯発達論Ⅱ		2			✓						
		形態機能学		4		✓							
		形態機能学演習		2			✓						
		生化学		2		✓							
		栄養学		1			✓						
		家族関係論		2				✓					
		集団力動論		1				✓					
		ヒューマンセクシャリティⅠ		1					✓				
		ヒューマンセクシャリティⅡ			1				✓				
		生命倫理		1				✓					
	環境と健康	環境論Ⅰ		2		✓							
		環境論Ⅱ		2			✓						
		疾病・治療概論		2				✓					
		疾病・治療各論		3					✓				
		保健医療福祉政策論		1						✓			
		保健医療福祉行政論		3				✓					
専門科目	看護の基本	生活と健康		2		✓							
		看護学概論		2		✓							
		看護援助論Ⅰ		3				✓					
		看護援助論Ⅱ		3			✓						
		看護援助論Ⅲ		3			✓	✓					
		看護援助論Ⅳ		1				✓					
		看護提供システムⅠ		2					✓				
		看護提供システムⅡ			1							✓	
		看護技術論			1							✓	
		生涯発達看護論Ⅰ		2				✓					
		生涯発達看護論Ⅱ		2					✓				
		生涯発達看護論Ⅲ			1							✓	

授業科目			㊄ 人文 ㊉ 社会 ㊐ 自然	単位数		1年		2年		3年		4年	
				必修	選択	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
専門科目	人間と環境の相互作用の保持・強化	家族発達看護論Ⅰ		3						✓			
		家族発達看護論Ⅱ			1							✓	
		地域看護論Ⅰ		2					✓				
		地域看護論Ⅱ		3						✓			
		地域看護論Ⅲ			1							✓	
	人間と環境の相互作用の修正	慢性期看護論Ⅰ		4						✓			
		慢性期看護論Ⅱ		3						✓			
		慢性期看護論Ⅲ			1							✓	
		リハビリテーション看護論Ⅰ		2						✓			
		リハビリテーション看護論Ⅱ			1							✓	
	人間と環境の相互作用の回復・保護	急性期看護論Ⅰ		3					✓				
		急性期看護論Ⅱ		2					✓				
		急性期看護論Ⅲ			1							✓	
		ターミナルケア論		3								✓	
	臨地実習	臨地実習 A		2							✓		
		臨地実習 B		2							✓		
		臨地実習 C		2							✓		
		臨地実習 D		2							✓		
		臨地実習 E		2							✓		
		臨地実習 F		2							✓		
		臨地実習 G		3							✓		
		総合実習			2							✓	
	看護学統合	看護研究Ⅰ		2								✓	
		看護研究Ⅱ			3								✓
		総合看護			3								✓
		看護政策論		2									✓
		看護ゼミナール			1							✓	✓
計				105	91								

2．授業実施内容

2008年度開講した科目ならびに単位認定者は次のようであった。

また、学部生の選択科目履修状況は**表４**のようであった。実習は**表５**の施設を利用して行われた。

1）Class　2012　第１学年

授業科目			単位数 必修	単位数 選択	学期 前期	学期 後期	担当教員
教養科目	人間と文化	キリスト教概論	2		＊		上田　憲明
		キリスト教倫理		2		＊	関　正勝
		音楽		2	＊		西澤万有里
		美術		2	＊		太田　雅雄
		文学		2	＊		廣木　一人
		哲学		2		＊	岩田　成就
	人間と社会	歴史学		2	＊		矢崎　彰
		法学(日本国憲法)		2		＊	倉爪真一郎
		教育原理		2	＊		佐藤　英二
		教育方法の研究		2		＊	菊田　文夫
		社会学		2	＊		伊藤　和弘
		心理学		2	＊		廣瀬　清人
	人間と言語	総合英語		1		＊	菱田　治子
		英語Ⅰ	2		＊	＊	菱田　治子 M.Huffman
		英語Ⅲ―A		1		＊	深谷　計子
		英語表現法Ⅰ―S	1		＊	＊	F.Kikuta B.Saito
		英語表現法Ⅰ―W	1		＊	＊	深谷　計子 柳澤　波香
		ドイツ語Ⅰ		2	＊	＊	福西　弘美
		中国語		2	＊	＊	黄　麗華
	人間と情報	統計学		2	＊		菊田　文夫
		情報科学		2	＊		開講せず
		情報処理演習		2	＊	＊	大津　洋

授業科目			単位数 必修	単位数 選択	学期 前期	学期 後期	担当教員
教養科目	人間と自然環境	生物学		2		＊	新山　優子
		物理学		2	＊		中本　淳
		化学		2		＊	渡部　徳子
	体育	体育Ⅰ		1	＊	＊	大濱あつ子
		体育Ⅱ		1	＊		大濱あつ子 菊田　文夫
	総合科目	総合科目Ⅰ（対人関係論）		2	＊		教養基礎科目担当教員
		総合科目Ⅱ（健康科学）		2		＊	菊田　文夫
基礎科目	人間と健康	生涯発達論Ⅰ	2			＊	及川　郁子
		生涯発達論Ⅱ	2			＊	亀井　智
		形態機能学	4		＊		大久保暢子 鈴木　高祐
		形態機能学演習	2			＊	大久保暢子 鈴木　高祐
		生化学	2		＊		小浪悠紀
		栄養学	1			＊	余語　典
	環境と健康	環境論Ⅰ	2		＊		古川　恵一
		環境論Ⅱ	2			＊	中山　和弘
専門科目	看護の基本	生活と健康	2		＊		菱沼　典子
		看護学概論	2		＊		菱沼　典子
		看護援助論Ⅱ	3			＊	安ヶ平伸枝
		看護援助論Ⅲ	1			＊	佐居　由美

前期　４月11日㈮～７月31日㈭
後期　10月１日㈬～12月19日㈮
　　１月13日㈬～２月18日㈬

2）Class　2011　第２学年

授業科目			単位数 必修	単位数 選択	学期 前期	学期 後期	担当教員
教養科目	人間と文化	音楽		2	＊		西澤万有里
		美術		2	＊		太田　雅雄
		文学		2	＊		廣木　一人
		倫理学		2	＊		鶴若　麻理
		宗教学		2	＊		岩田　成就
	人間と社会	歴史学		2	＊		矢崎　彰
		法学（日本国憲法）		2		＊	倉爪真一郎
		教育制度論		2		＊	伊藤　和弘
		カウンセリング概論		2		＊	廣瀬　清人 石川　智
		女性学		2	＊		中村　美亜
	人間と言語	国語表現法		2		＊	廣木　一人
		英語Ⅱ	2		＊		園城寺康子 深谷　計子
		英語Ⅲ－B		1	＊		深谷　計子
		文献講読－A		1		＊	深谷　計子
		英語表現法Ⅱ―S	1		＊	＊	F.Kikuta B.Saito
		英語表現法Ⅱ―W	1		＊	＊	菱田　治子 深谷　計子
		英語表現法Ⅲ―S		1		＊	菱田　治子
		ドイツ語Ⅱ		2	＊	＊	福西　弘美
		中国語		2	＊	＊	黄　麗華

授業科目			単位数 必修	単位数 選択	学期 前期	学期 後期	担当教員
教養科目	情報と人間と	情報科学		2	＊		開講せず
	体育	体育Ⅱ		1	＊		大濱あつ子 菊田　文夫
	総合科目	総合科目Ⅱ（健康科学）		2		＊	菊田　文夫
基礎科目	人間と健康	家族関係論	2		＊		瀬戸屋　希
		集団力動論	1		＊		萱間　真美
		ﾋｭｰﾏﾝｾｸｼｬﾘﾃｨⅠ	1			＊	有森　直子
		ﾋｭｰﾏﾝｾｸｼｬﾘﾃｨⅡ		1		＊	有森　直子
		生命倫理	1		＊		関　正勝
	環境と健康	疾病・治療概論	2		＊		白木　和夫 川名賢一郎
		疾病・治療各論	3			＊	小松浩子他
		保健医療福祉行政論	3		＊		伊藤　和弘 田上　豊
専門科目	看護の基本	看護援助論Ⅰ	3		＊		安ヶ平伸枝
		看護援助論Ⅲ	3		＊	＊	佐居　由美
		看護援助論Ⅳ	1		＊		佐居　由美
		看護提供システムⅠ	2			＊	井部　俊子
	人間と環境の相互作用の保持・強化	生涯発達看護論Ⅰ	2		＊		梶井　文子
		生涯発達看護論Ⅱ	2			＊	大森　純子
		地域看護論Ⅰ	2			＊	麻原きよみ
	人間と環境の相互作用の修正	急性期看護論Ⅰ	3			＊	卯野木　健
		急性期看護論Ⅱ	2			＊	小野　智美

※2008年度は、夏季海外語学研修を履修し、英語表現法Ⅲ―S、Ⅲ―W２単位を認定された学生は11名であった。

前期　４月11日㈮～７月31日㈭

後期　10月１日㈬～12月19日㈮、１月13日㈬～２月18日㈬

3）Class　2010　第３学年

授業科目			単位数 必修	単位数 選択	学期 前期	学期 後期	担当教員
教養科目	人間と文化	倫理学		2	＊		鶴若　麻理
		宗教学		2	＊		岩田　成就
	人間と言語	文献講読―B		1	＊		菱田　治子
		英語表現法Ⅲ―W		1	＊		深谷　計子
		異文化コミュニケーション		2	＊		園城寺康子 助川　尚子
		体育Ⅱ		1	＊		大濱あつ子 菊田　文夫
基礎科目	人間と健康	◎家族関係論	2		＊		瀬戸屋　希
	環境と健康	◎環境論Ⅰ	2		＊		古川　恵一
		◎保健医療福祉行政論	3		＊		伊藤　和弘 田上　豊
		保健医療福祉政策論	1		＊		星　旦二
専門科目	看護の基本	＊看護提供システムⅠ	2		＊		井部　俊子
	人間の環境と相互作用の保持・強化	家族発達看護論Ⅰ	3		＊		大隅　香
		地域看護論Ⅱ	3		＊		大森　純子
		学校保健		2	＊		岩辺　京子
	人間の環境と相互作用の修正	リハビリテーション看護論Ⅰ	2		＊		糸井　和佳

授業科目			単位数 必修	単位数 選択	学期 前期	学期 後期	担当教員
	人間と環境の相互作用の回復・保護	慢性期看護論Ⅰ	4		＊		飯岡由起子
		慢性期看護論Ⅱ	3		＊		瀬戸屋　希
	臨地実習	臨地実習A	2			＊	平林　優子
		臨地実習B	2			＊	永森久美子
		臨地実習C	2			＊	卯野木　健
		臨地実習D	2			＊	飯岡由起子
		臨地実習E	2			＊	梶井　文子
		臨地実習F	2			＊	瀬戸屋　希
		臨地実習G	3			＊	小林　真朝

＊印…編入生のみのクラス
◎印…編入生（３年生以外と合同クラス）

前期　４月11日㈮～７月31日㈭

後期　10月１日㈬～12月19日㈮、１月13日㈬～２月18日㈬

4）Class　2009　第４学年

授業科目			単位数 必修	単位数 選択	学期 前期	学期 後期	担当教員
教養科目	人間と情報	統計学演習		2		＊	菊田　文夫
		体育Ⅱ		1	＊		大濱あつ子 菊田　文夫
専門科目	基本の看護	看護提供システムⅡ		1	＊		井部　俊子
		看護技術論		1	＊		菱沼　典子
	人間と環境の相互作用の保持・強化	生涯発達看護論Ⅲ		1	＊		開講せず
		家族発達看護論Ⅱ		1	＊		堀内　成子
		地域看護論Ⅲ		1	＊		大森　純子
	人間と環境の相互作用の修正	慢性期看護論Ⅲ		1	＊		市川和可子
		ﾘﾊﾋﾞﾘﾃｰｼｮﾝ看護論Ⅱ		1	＊		大熊　恵子
	人間と環境の相互作用の回復・保護	急性期看護論Ⅲ		1	＊		卯野木　健
		ターミナルケア論	3		＊		小松　浩子
	臨地実習	総合実習	2		＊		看護担当教員
	看護学統合	看護研究Ⅰ	2		＊		松谷美和子
		看護研究Ⅱ		3		＊	専任教員
		総合看護		3		＊	専任教員
		看護政策論	2			＊	井部　俊子

授業科目			単位数 必修	単位数 選択	学期 前期	学期 後期	担当教員
専門科目	看護学統合	看護ゼミナール		1	＊		苦痛を伴う検査や処置を受ける子どもと家族の看護 （小野智子） 老年看護学 （亀井智子） 老年期の看護援助に関する文献学習 （梶井文子） 看護教育学 （松谷美和子） 国際看護 （長松康子） 学校保健 （岩辺京子） 生活行動が障害された患者とその家族への看護 （大久保暢子） 看護技術習得のあり方 （佐居由美） 遺伝看護 （有森直子） 性教育 （片岡弥恵子）

前期　４月11日㈮～７月31日㈭（随時）

後期　10月１日㈬～12月19日㈮、１月13日㈬～２月18日㈬（試験期間　随時）

5）Class　2011　学士編入12回生

授業科目			単位数 必修	単位数 選択	学期 前期	学期 後期	担当教員
教養科目	人間と文化	キリスト教概論	2		＊		上田　憲明
	人間と情報	統計学		2	＊		菊田　文夫
		情報処理演習		2	＊	＊	大津　洋
	体育	体育Ⅱ		1	＊		大濱あつ子 菊田　文夫
専門科目	人間と健康	○生涯発達論Ⅰ	2		＊		平林　優子
		○生涯発達論Ⅱ	2		＊		亀井　智子
		形態機能学	4		＊		大久保暢子 鈴木　高祐
		形態機能学演習	2			＊	大久保暢子 鈴木　高祐
		生化学	2		＊		小浪悠紀子
		栄養学	1			＊	余語　典子
		集団力動論	1		＊		萱間　真美
		ﾋｭｰﾏﾝｾｸｼｬﾘﾃｨⅠ	1			＊	有森　直子
		ﾋｭｰﾏﾝｾｸｼｬﾘﾃｨⅡ		1		＊	有森　直子
		生命倫理	1		＊		関　正勝
	環境と健康	環境論Ⅱ	2			＊	中山　和弘
		疾病・治療概論	2		＊		白木　和夫 川名賢一郎
		疾病・治療各論	3			＊	小松　浩子

○印…編入生のみのクラス

授業科目			単位数 必修	単位数 選択	学期 前期	学期 後期	担当教員
専門科目	看護の基本	生活と健康	2		＊		菱沼　典子
		看護学概論	2		＊		菱沼　典子
		看護援助論Ⅰ	3		＊		安ヶ平伸枝
		看護援助論Ⅱ	3			＊	安ヶ平伸枝
		看護援助論Ⅲ	3		＊	＊	佐居　由美
		看護援助論Ⅳ	1			＊	佐居　由美
	人間と環境の相互作用の保持・強化	生涯発達看護論Ⅰ	2		＊		梶井　文子
		生涯発達看護論Ⅱ	2			＊	大森　純子
		地域看護論Ⅰ	2			＊	麻原きよみ
	人間と環境の相互作用の修正	急性期看護論Ⅰ	3			＊	小松　浩子
		急性期看護論Ⅱ	2			＊	小野　智美

前期　４月11日㈮～７月31日㈭

後期　10月１日㈬～12月19日㈮、１月13日㈬～２月18日㈬

表４　学部選択科目履修状況

授業科目			学年	人数
教養科目	人間と文化	キリスト教倫理	１年	10
		音楽	１年・２年	3
		美術	１年・２年	18
		文学	１年・２年	13
		哲学	１年	4
		倫理学	２年・３年	5
		宗教学	２年・３年	19
	人間と社会	歴史学	１年・２年	7
		法学（日本国憲法）	１年・２年	21
		教育原理	１年	43
		教育方法の研究	１年	16
		社会学	１年	53
		心理学	１年	44
		教育制度論	２年	12
		カウンセリング概論	２年	14
		教職概論	２年	12
		女性学	２年	38
	人間と言語	国語表現法	２年	2
		総合英語	１年	14
		英語Ⅲ－A	１年	0
		英語Ⅲ－B	２年	14
		文献講読A	２年	6
		文献講読B	３年	9
		英語表現法Ⅲ－S	２年	0
		英語表現法Ⅲ－W	３年	7
		異文化コミュニケーション	３年	27
		ドイツ語Ⅰ	１年	37
		ドイツ語Ⅱ	２年	8
		中国語	１年・２年	10
	人間と情報	情報科学	１年・２年	開講せず
		統計学演習	４年	7
	人間と自然環境	生物学	１年	22
		物理学	１年	1
		化学	１年	1
	体育	体育Ⅰ	１年	51
		体育Ⅱ	１～４年	52
	総合科目	総合科目Ⅱ（健康科学）	１年・２年	9
		教職総合ゼミ	２年	12

授業科目			学年	人数
専門科目	看護の基本	看護提供システムⅡ	４年	3
		看護技術論	４年	1
	人間と環境の相互作用の保持・強化	生涯発達看護論Ⅲ	４年	開講せず
		家族発達看護論Ⅱ	４年	11
		地域看護論Ⅲ	４年	11
	人間と環境の相互作用の修正	慢性期看護論Ⅲ	４年	1
		リハビリテーション看護論Ⅱ	４年	6
	人間と環境の相互作用の回復・保護	急性期看護論Ⅲ	４年	35
	看護学統合	看護研究Ⅱ	４年	71
		総合看護	４年	17
		看護ゼミナール（障害を持つ子どもと家族の看護）	４年	8
		看護ゼミナール（老年看護）	４年	5
		看護ゼミナール（看護教育）	４年	0
		看護ゼミナール（国際看護）	４年	9
		看護ゼミナール（学校保健）	４年	3
		看護ゼミナール（生活行動が障害された患者とその家族の看護）	４年	5
		看護ゼミナール（看護技術習得のあり方）	４年	0
		看護ゼミナール（老年期の看護援助に関する文献学習）	４年	11
		看護ゼミナール（遺伝看護）	４年	10
		看護ゼミナール（性教育）	４年	4

表５　2008年度　実習施設一覧表

	授業科目	単位数	施　設　名
1	看護援助論Ⅳ	1	聖路加国際病院
2	臨地実習 A	2	聖路加国際病院
3	臨地実習 A	2	済生会横浜市東部病院
4	臨地実習 A	2	神奈川県立 こども医療ｾﾝﾀｰ
5	臨地実習 B	2	聖路加国際病院
6	臨地実習 B	2	東府中病院
7	臨地実習 C	2	聖路加国際病院
8	臨地実習 D	2	聖路加国際病院
9	臨地実習 E	2	永生会永生病院
10	臨地実習 E	2	救世軍ブース記念病院
11	臨地実習 E	2	ブース記念老人保健施設 グレイス
12	臨地実習 E	2	介護老人保健施設リハポート明石
13	臨地実習 F	2	東京武蔵野病院
14	臨地実習 G	3	杉並区荻窪 保健センター
15	臨地実習 G	3	杉並区高円寺 保健センター
16	臨地実習 G	3	杉並区高井戸 保健センター
17	臨地実習 G	3	杉並区上井草 保健センター
18	臨地実習 G	3	豊島区池袋保健所
19	臨地実習 G	3	練馬区大泉 保健相談所
20	臨地実習 G	3	練馬区関 保健相談所
21	臨地実習 G	3	練馬区北 保健相談所
22	臨地実習 G	3	練馬区石神井 保健相談所
23	臨地実習 G	3	足立区竹の塚 保健総合センター
24	臨地実習 G	3	足立区江北 保健総合ゼンター
25	臨地実習 G	3	千代田区 千代田保健所
26	臨地実習 G	3	中央区日本橋 保健センター
27	臨地実習 G	3	中央区中央区保健所
28	臨地実習 G	3	中央区月島 保健センター
29	臨地実習 G	3	江戸川区中央 健康サポートセンター
30	臨地実習 G	3	江戸川区東部 健康サポートセンター
31	臨地実習 G	3	江戸川区清新町 健康サポートセンター
32	臨地実習 G	3	江戸川区葛西 健康サポートセンター
33	臨地実習 G	3	中野区中部 保健福祉センター
34	臨地実習 G	3	中野区南部 保健福祉センター
35	臨地実習 G	3	中野区北部 保健福祉センター
36	臨地実習 G	3	中野区鷺宮 保健福祉センター
37	臨地実習 G	3	港区みなと保健所
38	臨地実習 G	3	おもて参道 訪問看護ステーション
39	臨地実習 G	3	浅草医師会立 訪問看護ステーション
40	臨地実習 G	3	医師会立中央区 訪問看護ステーション
41	臨地実習 G	3	医師会立品川区 訪問看護ステーション
42	臨地実習 G	3	セコム駒込 訪問看護ステーション
43	臨地実習 G	3	セコム高輪 訪問看護ステーション
44	臨地実習 G	3	セコム田園調布 訪問看護ステーション
45	臨地実習 G	3	セコム吉祥寺 訪問看護ステーション
46	臨地実習 G	3	セコム練馬 訪問看護ステーション
47	臨地実習 G	3	練馬区医師会立 訪問看護ステーション
48	臨地実習 G	3	自由が丘 訪問看護ステーション
49	臨地実習 G	3	白河訪問看護 ステーション
50	臨地実習 G	3	綾瀬訪問看護 ステーション

	授業科目	単位数	施　設　名
51	臨地実習 G	3	板橋ロイヤル訪問看護ステーション
52	臨地実習 G	3	白十字訪問看護ステーション
53	臨地実習 G	3	あすか山訪問看護ステーション
54	臨地実習 G	3	訪問看護ステーションけせら
55	臨地実習 G	3	訪問看護ステーションみけ
56	臨地実習 G	3	訪問看護ステーションけやき
57	臨地実習 G	3	訪問看護ステーションさぎそう
58	臨地実習 G	3	城北訪問看護ステーション
59	臨地実習 G	3	東電さわやか訪問看護ステーション中野・訪問看護
60	臨地実習 G	3	訪問看護ステーション芦花
61	臨地実習 G	3	岩本町訪問看護ステーション
62	臨地実習 G	3	新みさと訪問看護ステーション
63	総 合 実 習	2	聖路加国際病院
64	総 合 実 習	2	訪問看護ステーションパリアン

	授業科目	単位数	施　設　名
65	総 合 実 習	2	中央区明正小学校
66	総 合 実 習	2	東京武蔵野病院
67	総 合 実 習	2	聖路加国際病院訪問看護ステーション
68	総 合 実 習	2	共同作業所ひやしんす城北
69	総 合 実 習	2	永生会永生病院
70	総 合 実 習	2	川崎市立井田病院
71	総 合 実 習	2	東芝ﾋｭｰﾏﾝｱｾｯﾄｻｰﾋﾞｽ(株)保健支援事業部
72	総 合 実 習	2	小鹿野町保健福祉センター
73	総 合 実 習	2	NTT 東日本首都圏健康管理センター
74	総 合 実 習	2	訪問看護ステーションあかし
75	総 合 実 習	2	多摩たんぽぽ訪問看護ステーション
76	総 合 実 習	2	助産婦石村
77	総 合 実 習	2	森田助産院
78	総 合 実 習	2	かもめ助産院

3．カリキュラム評価

新カリキュラムが開始されて以来、毎年カリキュラム評価を行っている。本年度は前後期に例年の通り、①学生による科目評価、②学生による実習評価、③教員による科目評価、④実習受入機関のスタッフによる評価を行った。2000年度から2004年度までの５年間の総括評価をもとに、10年を経過したカリキュラムの全面的な見直しを行うことになり、カリキュラム2010の小委員会を編成し、活動を行った。

課題となっているカリキュラム評価の公表については、カリキュラム運用委員会で検討した結果、2008年度より学内イントラ上に公表することが決定され、詳細について検討した。各科目ごとの項目の平均値と自由記載に対する教員の所見を学期ごとに学内イントラネットに公表することになり、まず、2008年度前期分について公表された。

４．立教大学との単位互換

１）2001年度より、本学学生の立教大学全学共通カリキュラム（教養科目に相当）の履修が開講され、履修を進めている。本年度の立教大学特別聴講学生の履修状況は、**表５**および**表６**のとおりであり、1人１科目から２科目履修していた。履修科目数は昨年度と比べ２倍であったが、前期は履修者３名、後期は０名と少数であった。前期終了時にアンケートを実施した結果、キャンパスが遠い、興味ある授業がない、移動が大変である等が履修者が少ない主な理由となっている。

表５　立教大学履修者数

授　業　科　目	履修者数
対人関係の心理	3
現代社会と環境	2

表６　立教大学科目履修状況

	前期	後期
開講科目数	23	19
履修科目数	2	0
履修者数	3	0
単位習得率	100％	

２）2002年から立教大学において全学共通カリキュラム［総合A群・環境と人間に属する科目「人間と看護」］２単位を開講している。後期月曜日１限目に各看護専門領域教員10名および非常勤講師１名が担当するオムニバス方法をとっている。履修登録者189名のうち単位取得者169（89.4％）名であった。

今後、立教大学との単位互換をどのように進めていくか、立教大学全学共通カリキュラム運営センター部長と教務部長が10月に意見交換を行った。考えられる方法が挙げられ、今後も話し合いの機会を持ち検討していくことになった。

５．安全対策

リスクマネージャーを学部長とし、学事協議会が安全対策に関する協議や対応の任に当たった。本年度の事故報告書は、実習関連10件、教務関連３件、健康管理１件の合計14件であった。

１）実習関連

患者の安全対策にかかわるインシデント報告は以下のとおりで、いずれも後遺症や入院期間を延長する治療は必要としなかった。

基礎看護実習（１年次）の後に学生に発疹が認められ感染源になる疑い１件。看護援助論Ⅳ（２年次）で、車椅子移乗の際に不注意による下肢の外傷が１件。臨地実習（３年次）では、次の５件の報告があった。①車椅子からの転落②患者持ち物の破損③皮膚の損傷④酸素の供給ミス（数分間）⑤移動時の外傷。総合実習（４年次）では、子どもの転落の報告ミス１件。大学院（修士１年）の実習では、①針刺し事故②湿布の貼付ミスによる皮膚の損傷の２件であった。

以上の報告を受けて、インシデントを起こした学生と教員とが十分に話し合うこと、発生の原因や背景を再度確認しあうこと、どのような思考や行動をとれば最良であったかを振り返って考えること、再発防止のために臨床現場と話し合うこと等、学生に対して教育的に関わることを確認した。

２）教務関連

教務事務のインシデントには、次の３件の報告があった。

①　「博士学位論文内容の要旨と審査結果の要旨第25集」を学外へ公表したところ、修了生２名から誤植の指摘があった。印刷業者と教務部との連絡・確認作業が適切ではなかったためであった。当該修了生には説明と謝罪を行い、訂正版の印刷を行い再配布した。再発防止のための手順の確認等の対策を教務部で講じた。

②　看護実践開発研究センターにおいて、認定看護師教育の実習先に送付するべき研修生の予防接種歴調査票・健康診断書の取り扱いに際して、異なる研修生の感染情報を送付するというインシデントが起こった。同姓の名前の確認が不十分であったためであった。

実習先の医療機関と当該研修生に対しては経過説明と謝罪を行った。このインシデントを通じて、認定看護師教育課程研修生の個人情報の保管場所と方法、個人情報送付時の手順等の再確認が行われた。

③　学生の提出リポートの紛失（盗難）および書き写しの不正行為が発覚した。授業科目の評価の一部となるリポートを担当教員の研究室の廊下の引き出しに提出させていた。廊下の引き出しは、鍵がなく誰でも持ち出せる状態にあったことが、盗難を招いた。被害にあった学生に対しては、状況を説明し謝罪した。授業科目に関連するリポートは、期限を決めて教務部に提出し保管する原則の徹底を再確認した。なお、不正行為を行った学生に対しては、「学生懲戒処分規程」に基づき、学事協議会および教授会の議を経て処分を決定した。

３）健康管理関連

教員と大学健康管理部とが連携して行う仕事で、連絡網等の不備が指摘されるインシデントが起こった。臨地実習の実習先で学生が意識を失い救急搬送となった。適切な治療が行われて回復したが、検討課題が明白になった。

①実習施設の学生担当者から大学の実習担当者への連絡体制②事前の学生の健康状況から予見することができなかったか③学生の既往歴を実習先に事前に伝えるべきかどうか等。

その結果、①実習中の学生に健康上の問題が起きた場合の連絡網の確認②健康管理部での実習前のオリエンテーションの充実③学内実習担当者会議での情報交換等の対策を再確認した。

上記のように、本年度は実習関連、教務関連、健康管理関連のインシデントが起こり、安全対策の必要があった。報告を受けて、被害を受けた人への説明と謝罪を行うと同時に、詳細な記録を残しインシデント発生の背景になったシステム上の不備を見直し、どのように防ぐかの改善策を講じ、再発防止に取り組んだ。

今後も、安全対策はますます必要になってくると考えられる。教職員全体でヒューマンエラーを認識し、インシデントを惹起するシステム見直し、必要な手順を遵守し、事故の再発防止を目指して考え、教え、行動する組織を目指したいと考える。

６．卒業の状況

2008年度学部卒業生は88名（一般入学生69名＋学士編入生19名）であった。１年次入学生は70名であったが、４名が１級下がり、１名が退学、３名が上級より加わった。

学士編入10回生は20名の入学で、１名が１級下がった。

卒業生の修得単位および国家試験の結果は**表７、８**のようであった。

表７　平均修得単位数（学士編入生を除く）

		卒業所要単位数	平均取得単位数	最高取得単位数	最低取得単位数
教養科目	教養科目		19	26	17
	外国後科目	10	10	13	10
	小　計	28	30	38	28
基礎科目		31	32	32	32
専門科目		69	70	72	69
総　計		128	132	140	130

表８　国家試験結果　（9月卒業生を除く）

	受験者（名）	合格者（名）	合格率（%）
保健師	87	86	98.9
看護師	88	86	97.7

７．カリキュラム運用委員会

2008年度カリキュラム運用委員会は、定例会議を11回開催した。委員は各領域の責任者16名と教務課長（書記）で構成され、教務部長が委員長を務めた。委員が欠席の場合、その領域から代理が出席した。

委員会では例年同様、本年度の教育課程運用に関する事項（学生の履修上の課題、臨時助教の人事等）、単位認定に関する事項、次年度の教育課程運用に関する事項（単位認定者の決定、非常勤講師の人事、日程、時間割）を扱った。また、本年度は科目等履修生の履修科目の検討（看護研究Ⅱを履修科目とした）、祭日等により授業回数（時間）が規定に満たない科目に関する対応の検討と補講日の設定、立教大学全学共通カリキュラム履修生の減少に伴う履修方法のあり方に関する検討、カリキュラム改訂に関する小委員会（カリキュラム2010）からの報告についての検討を行った。

カリキュラム2010については、８名で構成され、12回の会議を開催した。また、FD研修会およびF&Sミーティング（教職員会議）の際に、現行カリキュラムの問題点および新しいカリキュラムへの要望等意見を採集し、検討を行った。しかし、カリキュラム改訂が現行カリキュラムの小規模な改訂か、教育理念から見直す大規模な改訂か、教員間で合意が得られていないことがわかった。そこで、カリキュラム2010からの提案を受けて、カリキュラム改訂の方向性について再検討を行った。その結果、教育理念や卒業生の特性要件の大枠を踏襲しながら改訂することとし、期限は2011年３月までとなった。カリキュラム改訂小委員会はカリキュラム2011とし、メンバーを増やして来年度に継続することとなった。

総合実習、看護研究Ⅱ・総合看護の担当決定のため特別会議をそれぞれ１回開催した。

８．実習室委員会

本委員会は４名で活動し、実習室運営に関するマニュアルに基づき運営した。2008年度の活動内容について報告する。

１）予算について

本年度は文部科学省補助金（平成20年度　教育・学習方法改善支援経費）により、パラマウントスイングアーム介助バー６台、ベッドサイドレール３個、Neonatal Resuscitation Baby１台、注射のシミュレータかんたんくん１台、摘便・浣腸モデル１台、アトム輸液ポンプ１台を購入した。

２）物品および教材の管理について

⑴　医療機器・教材の定期点検

従来どおり、年２回（８月、３月）心電図、呼吸器、シリンジポンプ等は聖路加国際病院のCE に点検を依頼し、年１回（３月）、蘇生人形、レサシ人形等の点検を業者に依頼した。そのうち蘇生訓練用学童シミュレーターの呼吸フィルターが破損していたため修理を依頼した。そのほかの蘇生人形、レサシ人形、呼吸音聴診シミュレーターにも破損部位が報告されたが、修理依頼は次年度の委員会で報告内容を検討した後に行う予定である。通電・充電・作動については、自己学習支援員により学内で毎月行っている。

⑵　物品の貸し出し、破損の管理について

物品の貸し出しについては、教務にある物品持ち出し票を用いて管理を行った。また、貸し出す際は、物品名と個数、番号を票に記載してもらい、物品が同時に多く貸し出された場合の確認ができるように配慮した。なお、物品持ち出し票の管理は教務で行い、物品貸し出し後の返却状況の管理は自己学習支援員が行い、問題はなかった。本年度、多く貸し出された物品はアネロイド血圧計やステート、高研ベビー人形、蘇生人形、体温計、乳房触診モデル、助産演習物品等であった。破損や修理等の管理に関しては、実習室委員間で月ごとに担当者を決め、ポスターで学内に周知し、窓口を決めて管理を行った。また、修理依頼物品リストを作成し、一貫して管理できるようにした。

⑶　実習室インベントリー

2009年３月11日㈬10時から14時まで、教員（看護系担当助教および有志の准教授、研究センター助教）、学生アルバイト、自己学習支援員総勢47名により、地下アーツルーム、倉庫、シミュレーションルーム、診察室、自己学習室、準備室および６階アーツルームについて実施した。例年どおり、領域ごとの特徴的な物品の管理は担当領域の教員が行い、チェック体制はスムーズであった。昨年に引き続き、古い看護実習に関する物品（湿布しぼり）をアーカイブ関連（歴史的資産の保存）棚に保管した。また、地域看護学領域で使用しなくなった古い型のアネロイド式血圧計11台を、国際看護学領域を通してフィリピンに寄付することになった。

３）清掃について

例年どおり夏・春の年２回、業者と協力し実習室の清掃及び整備を地下アーツルーム、倉庫内、シミュレーションルーム、診察室、自己学習室、準備室、和室、６階アーツルームにおいて実施した。床清掃とともに各部屋の棚と各ベッドの清掃、床頭台、オーバーテーブルなどの整備も行った。また、倉庫のワックスかけは年１回行った。

４）自己学習支援員について

本年度の自己学習支援員の勤務は原則として毎火曜日および木曜日13時～19時とし、学生が卒業や休暇となる年度末の３月には配置しなかった。また援助論の実技試験前、臨地実習前など学生のアーツルーム利用頻度が増える時期にあわせて、人数や時間帯、曜日を変更し、さらに夏休み時期も配置した。この結果、支援員の指導件数は**表９**のとおりであった。総数は昨年度の利用状況よりやや増加している。これは、12月と１月に実技試験前の自己学習数の増加を見越し、支援員の人数を増やしたり、年明け早々から支援員を配置したことにより、支援員の指導件数が増加したと考えられる。また昨年度から助産課程の大学院生の利用も定着しつつある。

表９　2008年度実習室自己学習支援員指導件数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	*学年別総計*
１学年	0	0	0	0	0	0	3	10	103	241	34	0	*391*
２学年	0	20	203	34	0	9	12	26	42	0	3	0	*349*
３学年	0	2	0	0	0	59	4	4	10	5	8	0	*92*
４学年	0	0	1	3	0	0	0	0	0	2	0	0	*6*
月間総計	*0*	*22*	*204*	*37*	*0*	*68*	*19*	*40*	*155*	*248*	*45*	*0*	*年間計　838*

主な学習内容

５月	ベッドメーキング
６月	ベッドメーキング、ベッドバス、体位変換、移動、陰部洗浄、皮下・筋肉・静脈注射、採血
７月	皮下注射、採血
９月	ベッドメーキング、沐浴、ベッドバス、移動、バイタルサイン測定、経管栄養、便器・尿器の当て方、輸液管理、採血、吸引、摘便、三方活栓の使い方
10月	体位変換、バイタルサイン測定、フィジカルアセスメント、導尿
11月	フィジカルアセスメント、経管栄養、便器・尿器の当て方、血糖測定、人工呼吸管理
12月	浣腸、導尿、便器・尿器の当て方、血糖測定、吸引、食事介助
１月	浣腸、導尿、血糖測定、吸引、外傷管理
２月	沐浴、フィジカルアセスメント、吸引

上記利用状況と別に、大学院生（助産課程）の利用は６月が11人、10月が１人であった。

このように、実習室委員会では、学生の自己学習の支援、器材・物品管理等に関して実習室委員である専任教員のみの対応では限界があり、自己学習支援員の存在は不可欠である。今年度は聖路加国際病院勤務経験のある卒業生、他大学大学院生（臨床経験あり）により支援員業務を継続的に行う人材を確保した。支援員の確保については、今後も広くのリクルート活動を継続していく。また、支援員の氏名と顔写真をポスターにしたり、支援員の勤務シフト表を掲示することで、学生や教員が親近感をもち、相談しやすくなるよう周知に努めた。

５）その他

実習室委員会では、アーツルームと物品の活用や管理に対する学生の意見や要望を委員会活動に反映するために、学生実習室委員会の必要性について検討したが、発足には至らなかった。

９．実習のあり方検討会

１）実習のあり方検討会の目的

実習のあり方検討会では、患者の在院日数の短期化、医療の高度化･複雑化、実習における看護学生の経験知の低下のなかで、看護基礎教育における実習のあり方を再検討することを目的として発足した。現在、主に以下の２点について検討している。

⑴　学生の臨床への適応を促進するための方策の検討

⑵　臨床側と大学側との連携強化

２）検討会の構成メンバー

本検討会のメンバーは､聖路加看護大学教員および聖路加国際病院看護職員で構成され､現在、11 名（聖路加看護大学６名、聖路加国際病院５名）である。

３）活動内容

2008年度は､「①臨床側と大学側の連携を強化するとともに､②学生の臨床への適応を促進するための演習・臨地実習モデルを構築し、導入、評価をしていくこと」を目的とし活動した。

⑴　本年度の活動概要

昨年度（2007年度）、実施した演習プログラムの実施状況を見直し、内容を洗練させ演習を実施した〔研究課題「看護基礎教育における臨地実習のあり方に関する研究：新人看護師への職業適応促進のための演習プログラムの開発08（研究倫理審査委員会承認番号08-026)」〕。本演習プログラムは、具体的な実習･演習プログラムの一部であり、統合的な内容で行う実習状況の設定を前提とし、複数の患者を受け持ち、タイムマネージメントの必要性を学ぶことを目的とした演習である。今年度の演習は、昨年度同様、聖路加国際病院消化器センターにて実施し、聖路加国際病院の看護師等の協力を得て、プリセプター役・患者役を担当してもらい、よりリアリティの高い臨床現場に近い演習状況を設定した。昨年度の演習結果や、昨年度の演習経験者のフォーカスグループインタビューの評価をふまえ、プログラムの内容を見直した。与薬の基本を基礎演習とし、多重課題演習では複雑性に応じて中級・上級の２段階を設けた。効果的に演習が行えるよう事前学習資料を配布した。本演習のカリキュラムへの導入を想定し演習可能な人数を10名に設定した。昨年度、卒業式前日の３月に実施したことで参加者が少なかった反省を踏まえ、７月より募集を開始して10月に演習を実施した。

その結果、10名の学生の応募があった（後に辞退者があり、全日程の演習を終了した学生は８名であった)。演習に参加した学生や看護師からは、臨床現場への橋渡しとして効果的なプログラムであると評価された。与薬の基本では、既習の内容にもかかわらず、時間制限や現実的な種々の対応が必要な状況下では、安全な与薬技術を実施することが困難で、基本を呼び覚ます体験ができたこと、点滴の操作など、これまで実際には行えなかった内容を実施できたことなどに意義を感じていた。また、「プリセプター役からのフィードバックがとてもよかった」「前年度参加者からのよりリアルなフィードバックもあり演習の目的に効果があった」などが聞かれた。また多重課題の演習では、演習目的にそった内容を検討したことで、参加学生はほぼ時間内で対応すべき内容をこなすことができた。順序が後半の学生ほど他学生の演習を見学する機会を得られ、より自分の実践状況を描くことができ、前半の学生と比べ落ち着いて演習にのぞんでいた。さらに多重課題は２パターンの演習を午前と午後に分けて行ったが、午後の

演習では、午前の経験が活かされ、状況への対応のぎこちなさも減少し、反復経験による学習効果の手ごたえが得られた。

４）今後の方向性

2009年度は、これまでの活動成果をふまえ、2011年のカリキュラム改定に向け、具体的な提案を行っていく予定である。

【活動成果の公表】

［報告書］

・看護基礎教育における実習のあり方検討会　あり方検討会活動報告書（2004 年度～2007 年度）：2008 年 4 月.

［学会発表］

・新人看護師への移行演習プログラム開発プロセス［実践報告］：飯田正子、松谷美和子、 高屋尚子、平林優子、 寺田麻子、 西野理英、 桃井雅子、 佐居由美、 卯野木健、 井部俊子、 佐藤エキ子、第 12 回聖路加看護学会学術大会（2008 年 09 月）.

・看護学生の卒直後と卒後３ヶ月の「臨床実践能力」の比較：佐居由美、松谷美和子、平林優子、村上好恵、桃井雅子、西野理英、寺田麻子、高屋尚子、飯田正子、佐藤エキ子、井部俊子、第 39 回日本看護学会：看護管理（2008 年 10 月）.

［論文］

・桃井雅子、佐居由美、松﨑直子、松谷美和子、平林優子、村上好恵、高屋尚子、飯田正子、寺田麻子、西野理英、佐藤エキ子、井部俊子：新人看護師への移行演習プログラムの試行と評価（１）－コミュニケーション･スキル習得のための演習－、聖路加看護学会誌、第 12 巻第２号、41～48, 2008.

・村上好恵、平林優子、飯田正子、松谷美和子、佐居由美、桃井雅子、松﨑直子、高屋尚子、西野理英、寺田麻子、佐藤エキ子、井部俊子：新人看護師への移行演習プログラムの試行と評価（2）－状況設定の中での与薬の基本演習－、聖路加看護学会誌、第 12 巻第２号、50～56，2008.

・寺田麻子、松谷美和子、高屋尚子、西野理英、飯田正子、佐藤エキ子、平林優子、松﨑直子、村上好恵、桃井雅子、佐居由美、井部俊子（2008）、新人看護師への移行演習プログラムの試行と評価（３）－多重課題シナリオによる演習－、聖路加看護学会誌、第 12 巻第２号、58～63，2008.

・佐居由美、松谷美和子、平林優子、西野理英、寺田麻子、高屋尚子、飯田正子、桃井雅子、佐藤エキ子、井部俊子：看護基礎教育と看護実践とのギャップを縮める総合実習の効果～看護学生から臨床看護師へ～、聖路加看護学会誌、第 13 巻第１号、24～33，2009.

［2008年度　検討会メンバー］

聖路加国際病院；佐藤エキ子、高屋尚子、西野理英、寺田麻子、飯田正子

聖路加看護大学；井部俊子、松谷美和子、平林優子、佐居由美、大隅 香、卯野木健

10. 養護教諭一種検討会

［2008年度委員］

及川郁子（委員長）、麻原きよみ、伊藤和弘、菊田文夫、廣瀬清人、留目宏美、岩辺京子（非常勤講師）、森川雪絵（教務）

1）目的

養護教諭一種検討会は、2006年度より開講した養護教諭一種取得に関する選択科目の運用の検討ならびに運用の過程で生じる問題を検討するための委員会である。本委員会は学生の履修に関わる委員会であるため、カリキュラム運用委員会と密に連絡を取り合いながら行われる。

開講して３年目にあたる今年度の重点課題は、以下の２点であった。

⑴　履修者の養護実習校の決定

⑵　養護実習Ⅰ・Ⅱの実習内容や実習方法の検討による実習要項の作成

2）活動内容

⑴　科目履修に関するオリエンテーションの充実

養護教諭一種取得に向け、必要な履修科目等が各学年においてきちんと履修できるよう、新学期はじめに１年生から３年生にオリエンテーションを行った。

⑵　実習校の決定

実習校の決定は、３年次に行われる。今年度は、以下のプロセスを踏んで行われた。

①　新年度開始時のオリエンテーション

新年度開始時に養護実習の履修の有無を確認し、４月末に養護実習履修願いと養護実習校を決定するための手順等の説明を行った（履修願い、養護実習希望先に関する書式の作成）。その際、実習校の確保の目的から、出身校への申請を勧めることとした。

②　実習予定校の申請

５月から学生各自が実習希望校への依頼を行い、その結果、16名の履修者予定者のうち、８名が東京都公立校以外の出身校、８名が東京都公立校への希望となった。

③　東京都公立校以外の実習校への手続き

東京都公立校以外の実習校を希望し、内諾を得られた学校については、実習依頼ならびに承諾書の文書の取り交わしを８月末までに行った(書式作成)。

④　東京都公立校への申請

東京都公立校の実習校希望者８名については、学生の希望に沿って９月末に一括申請を行った（小学校４校、中学校２校、高等学校１校)。

12月の結果通知において、決定者２名、条件付・実習日相談者４名、否２名であった。条件付・実習日相談者については、各校に問い合わせなどを行った。否の学生を含め３名について、補充申請を12月末に行い、2009年２月に全員実習校が確定した。

⑶　養護実習要項の作成

実習要項の作成に当たっては、他学校の要項などを参考としながら岩辺京子非常勤講師と留目宏美助教が中心になって実習内容、方法、記録について検討したものを、全体で討議し作成した。その際、養護実習は総合実習の一部となっているため、５単位を養護実習Ⅰ（２単位総合実習）と養護実習Ⅱ(３単位選択)に分けているが、実習要項は５単位の学習と考え作成した。

実習要項の作成と平行して、事前学習の内容、評価方法、カンファレンス等についても検討を行い、要項に盛り込んだ。

⑷　その他の活動

・学士編入生の教職免許申請に関する科目の単位認定を行った。
・実習校の選定や実習内容など学生の不安や質問に適宜応じられるようにした。
・東京都公立校の実習校確保が難しかった場合を考え、私立学校数校の内諾を得た。
・日本養護教諭養成協議会2008年度総会に菊田文夫准教授と留目助教が出席した。
・養護に関する図書や雑誌の購入に関する検討を行った。
・教職総合ゼミに関する科目内容の変更について菊田文夫准教授を中心に検討を行った。

３）検討課題

今年度の活動過程で今後検討を要する課題について

①実習期間について：実習期間が、現在の総合実習の時期では遅い。今回依頼した多くの学校が、５月中頃から６月にかけて実習生を受け入れており、７月は定期試験や夏休みになるため不適であることがわかった。また、実習受け入れ期間が合わないために断られた学生もいた。

②養護実習と総合実習との分離：養護実習の履修決定が３年前期に行われるため（実習校の申し込みの関係上）、総合実習の履修選択を行う時期に迷う学生がいた。また、養護教諭一種資格取得の学生が例年10名以上いることは、実習校の確保、実習期間の問題などもあり、分けたほうが検討しやすい。

③養護教諭一種に関する専任教員の不在：養護教諭一種の科目履修、実習については委員会で検討を行っているが、学生相談の窓口、実習校との調整など、専任教員による対応が望ましいと考える。

養護教諭一種取得に関する履修については、まだ４年経過していないこと、４年次の実習は初めての実習であり現在検討している委員が実習担当をしていくことが望ましいと考え、次年度も引き続き同じ委員構成で、養護教諭一種取得に関する履修について検討していくことが申し合わされた。

【大 学 院】

1．大学院の教育課程

修士課程と博士課程は区分制で，２年と３年の別個の課程になっている。

博士後期課程は1999年度から、修士課程は2005年度からのカリキュラムに従って学習を進めている。

修士課程では、基盤分野に特別講義（がんと人間と社会）、特別講義（代謝医療と薬物療法）各１単位を新たに開講し、特別講義が５科目の中から選択できるようになった。

1）修士課程

修士課程のカリキュラムは，研究能力の開発と高度な職業能力の開発の２つの目的ごとに修士論文コースと上級実践コースを設けている。カリキュラムは，基盤分野，専門分野に大別され，2005年度より基盤分野を強化し、看護専門分野を細分化したカリキュラムを開始し、基盤分野では看護学の基礎的理論や研究方法ならびに関連諸科学の技法を学び，専門分野ではそれぞれ専攻する看護学の分野での理論や技法を探求する。さらに、修論コースでは看護学特別研究、上級実践コースでは実習、課題研究へと進む。

看護学専攻修士論文コースでは、①基礎看護学、②看護技術学、③成人看護学（急性・慢性）、④老年看護学、⑤国際看護学、⑥地域看護学、⑦看護管理学の７領域、そして上級実践コースでは、①がん看護学・緩和ケア、②老年看護学、③精神看護学、④地域看護学、⑤在宅看護学の５領域に学生が入学し、ウィメンズヘルス・助産学専攻では、修士論文コース、上級実践コースともに助産学の領域の学生が入学し、学習を行っている。社会人入学は看護学専攻が７名入学し、ウィメンズヘルス・助産学専攻は該当者がいなかった。

社会人入学制度は、科目の履修において最低週２度（土曜日を含め）来校し、夜間授業を含め３年間で修了する形としている。社会人と一般の学生が無理なく履修できるよう、看護学研究法、看護倫理の必修科目は週に２度開講している。履修の方法は**表10**に示すとおりである。社会人の場合、３年間の予定が初年度の７月の時点では立たないことが多く、変更が多くなっていることから、社会人に限り次年度以降年度初めに履修届を提出することを可能としている。

2）博士後期課程

博士後期課程のカリキュラムは、基盤分野、専門分野、看護学特別演習、看護学特別研究から構成され、看護学特別演習２単位、看護学特別研究６単位を含む14単位以上の修得が課せられている。入学後１年目が６単位の科目履修にあてられ、その後看護学特別演習、看護学特別研究へと進む。

本年度は、13名（うち５名が社会人入学、１名が外国人留学生）が入学した。指導体制については、入学後改めて指導教員を学生が選択し、原則としてそのまま研究指導の教授となる。また、必要に応じて、学外の研究者にも研究指導を依頼している。

修士課程および博士後期課程のカリキュラムについては、看護師資格を持たない学生の受け入れ、修士課程における上級実践コースの教育課程の検討、およびより専門性を高めるために部門の細分化の検討を行い、2009年度入学生よりカリキュラム改訂を行うことになった。

3）修士課程の履修科目および履修者数

2008年度修士課程の教育課程および履修者数は**表11**のようであった。

4）博士後期課程の履修科目および履修者数

2008年度の博士後期課程教育課程および履修者数は**表12**のようであった。

5）学位論文評価基準

研究科委員会において学位論文にかかる評価基準の検討を行い、明確な基準を設けた。2006年度後期の審査より導入し、2007年度便覧より評価基準を掲載している。

6）科目評価

大学院の授業科目について、学部同様科目評価を行うことが研究科委員会で検討され、評価表を作成し、2006年度後期から実施した。また、その結果と担当教員からのコメントを自己評価委員会がまとめ、2007年度より学内イントラネットに掲載している。

表10　修士課程授業科目、単位数および学年配置（2008年度入学生）

看護学専攻

分野	授業科目		修論コース 単位数 必修	修論コース 単位数 選択	上級実践ｺｰｽ 単位数 必修	上級実践ｺｰｽ 単位数 選択	1年次 前期	1年次 後期	2年次 前期	2年次 後期	3年次 前期	3年次 後期
基盤分野	応用形態機能学			2		2	◎		○			
	病態生理学			2		2		◎		○		
	看護心理学	特論		2		2	◎	◎	○	○		
		演習		2		2		◎	◎	○	○	
	看護社会学	特論		2		2	◎	◎	○	○		
		演習		2		2		◎	◎	○	○	
	看護学研究法		2		*2		◎	◎				
	看護理論		2		*2		◎	◎				
	看護倫理			2	*2			◎		○		
	看護情報学			2		2			◎		○	
	応用統計学		2			2	◎					
	フィジカルアセスメント			2		2		◎		○		
	特別講義（健康教育）			1		1		◎		○		
	特別講義（質問紙調査法の原理とその応用）			1		1		◎		○		
	特別講義（国際関係論）			1		1	◎		○			
	特別講義（がんと人間と社会）			1				◎		○		
	特別講義（代替医療と薬物）			1				◎		○		
専門分野	基礎看護学	特論Ⅰ		2			◎		○			
		特論Ⅱ		2				◎		○		
		演習Ⅰ		2			◎		○			
		演習Ⅱ		2				◎		○		
		演習Ⅲ		2					←△→			
	看護技術学	特論Ⅰ		2			◎		○			
		特論Ⅱ		2				◎		○		
		演習Ⅰ		2			◎		○			
		演習Ⅱ		2				◎		○		
		演習Ⅲ		2					←△→			
	看護教育学	特論Ⅰ		2	*2		◎		○			
		特論Ⅱ		2		2		◎		○		
		演習Ⅰ		2			◎		○			
		演習Ⅱ		2				◎		○		
		演習Ⅲ		2					←△→			
	小児看護学	特論Ⅰ		2		2	◎		○			
		特論Ⅱ		2		2		◎		○		
		特論Ⅲ				2			◎			
		演習Ⅰ		2		2	◎		○			
		演習Ⅱ		2		2		◎		○		
		演習Ⅲ		2		2			←△→			
	成人看護学（急性・慢性）	特論Ⅰ		2		2	◎		○			
		特論Ⅱ		2		2		◎		○		
		特論Ⅲ				2			◎			
		演習Ⅰ		2		2		◎		○		
		演習Ⅱ		2		2	◎		○			
		演習Ⅲ		2		2			←△→			
	がん看護学・緩和ケア	特論Ⅰ		2		2	◎		○			
		特論Ⅱ		2		2		◎		○		
		特論Ⅲ				2			◎			
		演習Ⅰ		2		2		◎		○		
		演習Ⅱ		2		2	◎		○			
		演習Ⅲ		2		2			←△→			

分野	授業科目		修論コース 単位数 必修	修論コース 単位数 選択	上級実践コース 単位数 必修	上級実践コース 単位数 選択	1年次 前期	1年次 後期	2年次 前期	2年次 後期	3年次 前期	3年次 後期
専門分野	老年看護学	特論Ⅰ		2		2	◎		○			
		特論Ⅱ		2		2		◎		○		
		特論Ⅲ				2			◎			
		演習Ⅰ		2		2	◎		○			
		演習Ⅱ		2		2		◎		○		
		演習Ⅲ		2		2			←△→			
	精神看護学	特論Ⅰ		2		2	◎		○			
		特論Ⅱ		2		2		◎		○		
		特論Ⅲ				2			◎			
		演習Ⅰ		2		2	◎		○			
		演習Ⅱ		2		2		◎		○		
		演習Ⅲ		2		2			←△→			
	国際看護学	特論Ⅰ		2		2	◎		○			
		特論Ⅱ		2		2		◎		○		
		特論Ⅲ				2			◎			
		演習Ⅰ		2		2	◎		○			
		演習Ⅱ		2		2		◎		○		
		演習Ⅲ		2		2			←△→			
	地域看護学	特論Ⅰ		2		2	◎		○			
		特論Ⅱ		2		2		◎		○		
		特論Ⅲ				2			◎			
		演習Ⅰ		2		2	◎		○			
		演習Ⅱ		2		2		◎		○		
		演習Ⅲ		2		2			←△→			
	在宅看護学	特論Ⅰ		2		2	◎		○			
		特論Ⅱ		2		2		◎		○		
		特論Ⅲ				2			◎			
		演習Ⅰ		2		2	◎		○			
		演習Ⅱ		2		2		◎		○		
		演習Ⅲ		2		2			←△→			
	看護管理学	特論Ⅰ		2	*2		◎		○			
		特論Ⅱ		2		2		◎		○		
		特論Ⅲ				2			◎			
		演習Ⅰ		2		2	◎		○			
		演習Ⅱ		2		2		◎		○		
		演習Ⅲ		2		2			←△→			
特別看護研究			8							←△→		
実習					6					←△→		
課題研究					2						←△→	

上級実践コースの必修科目は＊印の中より８単位以上を選択する。
ウィメンズヘルス・助産学専攻の専門分野の科目を10単位を超えない範囲で履修することができる。

・一般は、当該コース ◎ の時期に履修する。
・社会人は、当該コースの ◎ もしくは ○ の時期に履修する。（○ は翌年度入学生のクラスで受講）
・ ←△→ は、一般・社会人とも、担当教員と相談の上、履修時期と期間を決定する。

ウィメンズヘルス・助産学専攻

分野	授業科目		修論コース 単位数 必修	修論コース 単位数 選択	上級実践コース 単位数 必修	上級実践コース 単位数 選択	1年次 前期	1年次 後期	2年次 前期	2年次 後期	3年次 前期	3年次 後期
基盤分野	応用形態機能学			2		2	◎		○			
	病態生理学			2		2		◎		○		
	看護心理学	特論		2		2	◎	◎	○	○		
		演習		2		2		◎	◎	○	○	
	看護社会学	特論		2		2	◎	◎	○	○		
		演習		2		2		◎	◎	○	○	
	看護学研究法		2		*2		◎	◎				
	看護理論		2		*2		◎	◎				
	看護倫理			2	*2			◎		○		
	看護情報学			2		2			◎		○	
	応用統計学		2			2	◎					
	フィジカルアセスメント			2		2	◎		○			
	特別講義（健康教育）			1		1		◎		○		
	特別講義（質問紙調査法の原理とその応用）			1		1		◎		○		
	特別講義（国際関係論）			1		1	◎		○			
	特別講義（がんと人間と社会）							◎		○		
	特別講義（代替医療と薬物療法）							◎		○		
専門分野	ウィメンズヘルス	特論Ⅰ		2		2	◎		○			
		特論Ⅱ		2		2		◎		○		
		特論Ⅲ				2			◎			
		演習Ⅰ		2		2	◎			○		
		演習Ⅱ		2		2		◎			○	
		演習Ⅲ		2					←△→			
	助産学	特論Ⅰ		2		2			◎			
		特論Ⅱ		2		2			◎			
		特論Ⅲ				2	◎					
		特論Ⅳ				2	◎					
		特論Ⅴ				2		◎				
		演習Ⅰ		2		2				◎		
		演習Ⅱ		2		2				◎		
		演習Ⅲ		2		2	◎	◎				
		演習Ⅳ				2		◎				
		演習Ⅴ				2		◎				
	国際協働論	特論		2		2			◎			
		演習		2		2				◎		
	コミュニティ論	特論		2		2			◎			
		演習		2		2				◎		
	サービスマネジメント論	特論		2		2			◎			
		演習		2		2				◎		
特別看護研究			8						←△→			
実習					6				←△→			
課題研究					2					←△→		

看護学専攻の専門分野の科目を10単位を超えない範囲で履修することができる。

・一般は、当該コース ◎ の時期に履修する。
・社会人は、当該コースの ◎ もしくは ○ の時期に履修する。（○ は翌年度入学生のクラスで受講）
・助産学上級実践コースは一般入学のみ
・←△→ は、一般・社会人とも、担当教員と相談の上、履修時期と期間を決定する。

表 11　大学院修士課程履修者数

分野	授業科目		修論コース 単位数 必修	修論コース 単位数 選択	上級実践コース 単位数 必修	上級実践コース 単位数 選択	履修者数
基盤分野	応用形態機能学			2		2	15
	病態生理学			2		2	11
	看護心理学	特論		2		2	10
		演習		2		2	5
	看護社会学	特論		2		2	15
		演習		2		2	10
	看護学研究法		2		*2		26
	看護理論		2		*2		26
	看護倫理			2	*2		23
	看護情報学			2		2	2
	応用統計学		2			2	25
	フィジカルアセスメント			2		2	15
	特別講義（健康教育）			1		1	0
	特別講義（質問紙調査法の原理とその応用）			1		1	11
	特別講義（国際関係論）			1		1	4
	特別講義（がんと人と社会）			1		1	5
	特別講義（代替医療と薬物療法）			1		1	4
専門分野	基礎看護学	特論Ⅰ		2			2
		特論Ⅱ		2			2
		演習Ⅰ		2			2
		演習Ⅱ		2			2
		演習Ⅲ		2			1
	看護技術学	特論Ⅰ		2			1
		特論Ⅱ		2			1
		演習Ⅰ		2			1
		演習Ⅱ		2			1
		演習Ⅲ		2			0
	看護教育学	特論Ⅰ		2	*2		25
		特論Ⅱ		2		2	12
		演習Ⅰ		2			0
		演習Ⅱ		2			0
		演習Ⅲ		2			0
	小児看護学	特論Ⅰ		2		2	0
		特論Ⅱ		2		2	0
		特論Ⅲ				2	0
		演習Ⅰ		2		2	0
		演習Ⅱ		2		2	0
		演習Ⅲ		2		2	0
	成人看護学（急性・慢性）	特論Ⅰ		2		2	2
		特論Ⅱ		2		2	3
		特論Ⅲ				2	0
		演習Ⅰ		2		2	3
		演習Ⅱ		2		2	2
		演習Ⅲ		2		2	0
	がん看護学・緩和ケア	特論Ⅰ		2		2	6
		特論Ⅱ		2		2	6
		特論Ⅲ				2	5
		演習Ⅰ		2		2	5
		演習Ⅱ		2		2	5
		演習Ⅲ		2		2	5

分野	授業科目		修論コース 単位数 必修	修論コース 単位数 選択	上級実践コース 単位数 必修	上級実践コース 単位数 選択	履修者数
専門分野	老年看護学	特論Ⅰ		2		2	2
		特論Ⅱ		2		2	1
		特論Ⅲ				2	0
		演習Ⅰ		2		2	2
		演習Ⅱ		2		2	1
		演習Ⅲ		2		2	0
	精神看護学	特論Ⅰ		2		2	7
		特論Ⅱ		2		2	6
		特論Ⅲ				2	4
		演習Ⅰ		2		2	3
		演習Ⅱ		2		2	3
		演習Ⅲ		2		2	3
	国際看護学	特論Ⅰ		2		2	2
		特論Ⅱ		2		2	2
		特論Ⅲ				2	0
		演習Ⅰ		2		2	2
		演習Ⅱ		2		2	1
		演習Ⅲ		2		2	0
	地域看護学	特論Ⅰ		2		2	4
		特論Ⅱ		2		2	4
		特論Ⅲ				2	1
		演習Ⅰ		2		2	4
		演習Ⅱ		2		2	5
		演習Ⅲ		2		2	2
	在宅看護学	特論Ⅰ		2		2	2
		特論Ⅱ		2		2	2
		特論Ⅲ				2	1
		演習Ⅰ		2		2	2
		演習Ⅱ		2		2	2
		演習Ⅲ		2		2	1
	看護管理学	特論Ⅰ		2	*2		23
		特論Ⅱ		2		2	15
		特論Ⅲ				2	0
		演習Ⅰ		2		2	1
		演習Ⅱ		2		2	1
		演習Ⅲ		2		2	0
特別看護研究			8				8
実習					6		10
課題研究					2		10

ウィメンズヘルス・助産学専攻

分野	授業科目		修論コース 単位数 必修	修論コース 単位数 選択	上級実践コース 単位数 必修	上級実践コース 単位数 選択	履修者数
基盤分野	応用形態機能学			2		2	4
	病態生理学			2		2	13
	看護心理学	特論		2		2	0
		演習		2		2	0
	看護社会学	特論		2		2	3
		演習		2		2	1
	看護学研究法		2		*2		16
	看護理論		2		*2		16
	看護倫理			2	*2		16
	看護情報学			2		2	0
	応用統計学		2			2	16
	フィジカルアセスメント			2		2	14
	特別講義（健康教育）			1		1	0
	特別講義（質問紙調査法の原理とその応用）			1		1	3
	特別講義（国際関係論）			1		1	1
	特別講義（がんと人と社会）			1		1	7
	特別講義（代替医療と薬物療法）			1		1	0
専門分野	看護教育学	特論Ⅰ		2		2	7
		特論Ⅱ		2		2	0
	国際看護学	特論Ⅰ		2		2	0
		特論Ⅱ		2		2	0
		演習Ⅰ		2		2	0
	看護管理学	特論Ⅰ		2		2	9
		特論Ⅱ		2		2	3
	ウィメンズヘルス	特論Ⅰ		2		2	0
		特論Ⅱ		2		2	16
		特論Ⅲ				2	0
		演習Ⅰ		2		2	0
		演習Ⅱ		2		2	0
		演習Ⅲ		2		2	0
	助産学	特論Ⅰ		2		2	16
		特論Ⅱ		2		2	16
		特論Ⅲ				2	13
		特論Ⅳ				2	13
		特論Ⅴ				2	13
		演習Ⅰ		2		2	16
		演習Ⅱ		2		2	16
		演習Ⅲ		2		2	16
		演習Ⅳ				2	13
		演習Ⅴ				2	13
	国際協働論	特論		2		2	15
		演習		2		2	9
	コミュニティ論	特論		2		2	16
		演習		2		2	13
	サービスマネジメント論	特論		2		2	13
		演習		2		2	14
特別看護研究			8				3
実習					6		13
課題研究					2		13

表12　博士後期課程履修科目および履修者数

分野	授業科目			単位数 必修	単位数 選択	担当教員	2008年度履修者数
基盤分野	理論看護学				1	田代　順子	13
	看護学方法論			3		田代　順子	13
	心理学方法論				1	安保　英勇	8
	社会学方法論				1	伊藤　和弘	10
	基礎医学方法論				1	白木　和夫	4
	健康科学方法論				1	中山　和弘	10
	高等統計学				1	柳井　晴夫	13
専門分野	基礎系看護学	基礎看護学	特論		2	菱沼　典子	2
			演習		2	菱沼　典子	2
		看護教育学	特論		2	松谷美和子	0
			演習		2	松谷美和子	0
	臨床看護学Ⅰ	小児看護学	特論		2	及川　郁子	1
			演習		2	及川　郁子	1
		母性看護・助産学特論	特論		2	堀内　成子	3
			演習		2	堀内　成子	3
		成人看護学	特論		2	小松　浩子	3
			演習		2	小松　浩子	3
		老人看護学	特論		2	亀井　智子	0
			演習		2	亀井　智子	0
	臨床看護学Ⅱ	精神看護学	特論		2	萱間　真美	0
			演習		2	萱間　真美	0
		地域看護学	特論		2	麻原きよみ・田代順子	3
			演習		2	麻原きよみ・田代順子	3
		看護管理学	特論		2	井部　俊子	1
			演習		2	井部　俊子	1
看護学特別演習				2			13
看護学特別研究				6			13

2．修了の状況（表 13～15）

本年度は、修士論文コース、上級実践コース合わせて34名が修了した（**表13**）。特別看護研究を含め32単位以上の修得が課せられているが、2008年度修了生の修得単位状況は**表14**のとおりである。

博士の学位授与は９名であった。修了生の修得単位状況は**表15**のとおりである。また、１名に論文博士の学位を授与した。

表13　大学院修了者数

修士課程		博士後期課程（学位授与）	博士後期課程（単位取得後退学者）
看護学専攻	19 うち社会人４	9（2）	0
ウィメンズヘルス・助産学専攻	15		

（　）内は学位授与者のうち単位取得後退学後再入学し学位を受けたもの

表14　博士前期課程（修士課程）　34名

看護学専攻修士論文コース　８名

	修了所要単位数	平均取得単位数	最高取得単位数	最低取得単位数
基　礎　分　野	6以上	19	23	17
専　門　分　野		13	16	12
特別看護研究	8	8	8	8
総　計	32以上	40	47	37

看護学専攻上級実践コース　７名

	修了所要単位数	平均取得単位数	最高取得単位数	最低取得単位数
基　礎　分　野	8以上	18	20	8
専　門　分　野	12以上	18	20	18
実　習	6	6	6	6
課　題　研　究	2	2	2	2
総　計	32以上	44	46	36

指定された科目を基盤分野、専門分野の中から取得する

看護学専攻社会人修論コース　３名

	修了所要単位数	平均取得単位数	最高取得単位数	最低取得単位数
基　礎　分　野	6以上	14	15	13
専　門　分　野	12以上	13	16	12
特別看護研究	8	8	8	8
総　計	32以上	35	39	33

看護学専攻社会人上級実践コース　１名

	修了所要単位数	平均取得単位数
基　礎　分　野	8以上	17
専　門　分　野	12以上	20
実　習	6	6
課　題　研　究	2	2
総　計	32以上	45

ウィメンズヘルス・助産学専攻修士論文コース　４名

	修了所要単位数	平均取得単位数	最高取得単位数	最低取得単位数
基　礎　分　野	6以上	17	21	13
専　門　分　野	12以上	21	26	18
特別看護研究	8	8	8	8
総　計	32以上	46	51	39

ウィメンズヘルス・助産学専攻上級実践コース　11名

	修了所要単位数	平均取得単位数	最高取得単位数	最低取得単位数
基　礎　分　野	8以上	13	17	12
専　門　分　野	12以上	37	44	34
実　習	6	6	6	6
課　題　研　究	2	2	2	2
総　計	32以上	58	69	54

表15　博士後期課程

	修了所要単位数	平均取得単位数
基　礎　分　野	4	6
専　門　分　野	2	4
看護学特別演習	2	2
看護学特別研究	6	6
総　　計	14以上	18

大学院修士課程上級実践コースは、2008年４月１日～2011年３月31日の期間、厚生労働省より教育訓練給付金の講座指定を受けており、入学金、授業料のうち本人が支払った額（初年度分のみ）の20%に相当する額（上限10万円）の給付金が、修了後各自手続きを行うことにより給付される。実際に教育訓練給付金を受給された者の数は把握していないが、申請のための修了証明書発行部数は、2008年度は３名であった。

３．立教大学との単位互換

立教大学との相互聴講制度では、2008年度については、社会学研究科、コミュニティ福祉学研究科ともに本学の履修者はいなかった。立教大学からの履修者もいなかった。

４．ティーチングアシスタント（TA）

1997年度より実施しているティーチングアシスタント（TA）制度では、実習、演習および試験監督等で本年度約1,096時間の採用となり（**表16**）、昨年度に比べ若干減少した。また、臨時助教の採用（20名：総時間数約1,940時間）も減少している。本年度は、教員の中途退職、産休等で臨時に採用する必要はあったが、昨年度ほどではなかったと考えられる。TAを活用し、院生教育能力を高める機会が多いにもかかわらず、TAを確保することが例年通りできていないが、過密な大学院カリキュラムの中で徐々にではあるが、実績を積んできている。

表16　チィーチングアシスタント（ＴＡ）活用状況　　修：修士課程学生　　博：博士後期課程学生

	部　　門	月	人数	時間数	内　　容
基礎科目	生涯発達論Ⅰ	10	修１	2：30	演習指導
		11	博１	3：30	演習指導
	生涯発達論Ⅱ	1	修１	2：30	演習指導
	家族関係論	7	修２	3：00	試験監督
	集団力動論	6	修１	1：50	試験監督
	計			13：20	
専門科目	看護援助論Ⅲ	4	博１	3：00	デモンストレーション補助
			修１	3：00	デモンストレーション補助
		5	博２	17：00	演習記録確認等
			修１	3：00	演習記録確認等
		6	博２	44：30	演習指導補助
			修２	23：30	演習指導補助
		7	博２	11：30	実習指導補助
			修６	50：00	実習指導補助
		11	修１	5：00	実習指導補助
		12	修１	5：00	実習指導補助
		1	修２	27：00	実習指導補助
	看護援助論Ⅳ	9	博１	24：00	実習指導
	看護提供システムⅠ	12	修１	6：00	見学実習引率
	生涯発達看護論Ⅱ	7	修１	2：00	実習指導
		9	修１	5：00	実習指導
		10	博１	2：00	実習指導
			修３	14：00	実習指導
		11	修３	28：30	実習指導
	家族発達看護論Ⅰ	4	博１	17：30	PBLチューター
		5	博２	32：00	PBLチューター
		6	博２	27：00	PBLチューター
		7	博２	24：00	PBLチューター
	地域看護論Ⅲ	4	修１	4：30	フィールドワーク補助
		5	修１	10：50	フィールドワーク補助
		6	修１	3：30	フィールドワーク補助
	慢性期看護論Ⅰ	5	博３	31：00	演習指導
		7	修１	1：50	試験監督
		8	博３	12：00	提出物添削等
	慢性期看護論Ⅱ	5	修１	2：00	授業補助
		6	修３	11：20	授業補助
		7	修２	3：50	試験監督
	ターミナルケア論	5	修１	12：00	演習指導
		6	修１	5：00	演習指導
	臨地実習	9	修３	21：00	演習指導
	臨地実習A	9	修１	7：00	実習指導
		10	修１	7：00	実習指導
			博１	16：30	実習指導
		11	修１	14：00	実習指導
			博１	16：30	実習指導
		12	修１	7：00	実習指導
			博１	36：00	実習指導
	臨地実習B	2	修１	7：00	実習指導
			博１	25：00	実習指導
		10	博１	23：30	実習指導
			修１	17：00	実習指導
		11	博２	26：30	実習指導
		12	博２	17：00	実習指導
		1	博１	7：30	実習指導
		2	博１	8：30	実習指導

	部　　門	月	人数	時間数	内　　容
専門科目	臨地実習Ｃ／Ｄ	9 10	修５ 修４	30：45 50：15	実習指導 実習指導
	臨地実習Ｆ	10 12 1 2 3	修２ 修１ 修１ 修２ 博１ 博１	29：30 4：00 16：00 24：00 23：00 5：00	実習指導 実習指導 実習指導 実習指導 実習指導 実習指導
	総合実習（精神看護）	6 7	修１ 修２	43：00 10：00	実習指導 実習指導
	計			964：00	
その他	教　　務	7 11 12 2	修６ 博１ 修２ 修５ 修４ 博１	21：00 3：00 3：40 3：35 12：55 1：30	試験監督 試験監督 試験監督 試験監督 試験監督 試験監督
	計			45：40	
大学院	助　産　学　演　習　Ⅲ	6 7 10	博１ 博１ 修６	11：30 25：00 36：00	助産過程の展開 助産過程の展開 助産過程の展開
	計			72：30	
総　　計			修83 博32	1095：50	

５．がんプロフェッショナル養成

１）はじめに

本学は、大学院修士課程がん看護専門看護師コースにおいて、毎年４～５名の修了生を輩出してきた。がんプロフェショナル養成プランにより、本学では連携大学および医療施設との教育連携を基盤として、学生の専門性に応じた実務教育の強化を行う。そのために次のような活動を計画している。がん看護 CNS コースをもつ聖路加看護大学、北里大学、慶応義塾大学による＜南関東がん看護教育トライアングル＞による協働を強め、がん看護専門看護師教育の相互交流を行う。姉妹病院である MD Anderson Cancer Center のがん看護専門看護師を臨床教授として迎え、国際的視点にたった高度実践能力の拡大を図る。インテンシブコースとして開講したがん化学療法認定看護師コースの学生(30名)に対し、連携大学の腫瘍専門医、放射線治療専門医がん専門薬剤師等の専門家による特別講義や臨床講義により総合的な学習が展開できるよう試みる。あわせて、昨年度修了した認定看護師のブラシュアップ研修を新規に行う。また、がん専門看護師認定試験へのステップアップのために、修了生を対象に、事例検討会およびコンサルテーション事業を実施する。

２）補助事業の目的・必要性

⑴　全体

本補助事業の全体の目的は、聖路加看護大学がん看護専門看護師教育課程およびがん化学療法認定看護師教育課程（インテンシブコース）におけるカリキュラム強化を図り、南関東がん看護教育トライアングルを基盤に、南関東におけるがん看護専門看護師教育およびがん化学療

法看護認定看護師教育の質を担保・向上することである。さらに、9大学の連携・協働により、南関東圏におけるがんチーム医療のリーダシップを担うがん医療専門職者の育成に資するため、合同ワークショップ、種々の学術交流を積極的に取り組む。

⑵　本年度

本補助事業の本年度の目的は、上記の全体目標を達成するために、①がん専門看護師教育課程における海外よりの特別講義の実施（メイヨークリニック、MD Anderson Cancer Center、②海外における臨床演習のための教育連携強化、③Web based learning の開発と実施、④専門シミュレーションラボにおける化学療法看護演習の強化、⑤南関東がん看護教育トライアングルを基盤に、MD Anderson Cancer Center とのがん看護交流ワークショップ開催、⑥専門看護師インテンシブコースとして、事例検討会およびコンサルテーション事業の継続開催、⑥認定看護師インデンシブコースとして、がん化学療法認定看護師のシミュレーションラボにおける実践教育を強化する。

本年度の補助事業の目的を達成するために下記の教育活動を実施した。

①　年間を通し：専門看護師教育課程および認定看護師教育課程における Web based learning の開発と実施　（南関東がん看護教育トライアングル事業）

②　７～10月：本プランの教育連携病院におけるクリニカルプラクティスと評価

③　10月および２月：南関東がん看護教育トライアングルによる MD Anderson Cancer Center とのがん看護交流ワークショップ開催

④　10月～11月：シミュレーションラボにおける化学療法看護演習の実施

⑤　７月～11月：海外姉妹校におけるノマディック演習（対象者の選考の上）

⑥　４月以降継続的に、インテンシブコースとして、事例検討会およびコンサルテーション事業の継続開催

⑦　がん化学療法認定看護師教育課程におけるシミュレーションラボにおける演習、クリニカルプラクティスの実施

３）補助事業の内容

本補助事業は、選定された南関東圏における先端的がん専門家の育成プランにおける、がん専門看護師育成事業について、高度看護がん看護実践能力の向上、がんチーム医療の質向上に資する能力の向上を目指す補助事業であり、内容は以下のとおりである。

①　南関東がん看護教育トライアングル事業により、専門看護師教育課程および認定看護師教育課程における Web based learning の開発（緩和ケア、症状コントロールなど）と実施（本学の看護ネット上にコンテンツを集積･発信）し、関東圏におけるがん看護の質向上をめざす。

②　本プランの教育連携病院におけるクリニカルプラクティスを充実するための教育連絡会を組織し、実習プログラムの検討を行う。

③　MD Anderson Cancer Center とのがん看護交流ワークショップの開催に向けて、南関東がん看護教育トライアングル参画校間で連携し、企画・実施する。

④　シミュレーションラボにおける化学療法看護演習のために演習プログラムに基づき、ラボ整備、共同演習を実施する。

⑤　海外姉妹校におけるノマディック演習を実現するために、ヨンセイ大学、UCSF、MD

Anderson Cancer Center 等と教育協定等をつめる。それらに基づいて演習を試みる。

⑥　インテンシブコースとして、事例検討会およびコンサルテーション事業の継続開催と評価を行う。

⑦　がん化学療法認定看護師教育課程の開講、教育コースの実施。教育内容の洗練、演習・実習フィールドとの調整を行う。

教育会議による評価を行う。

4）補助事業から得られる具体的な成果

上記の本年度の補助事業実施計画を実施することにより、本補助事業から得られる具体的な成果は、以下のとおりである。

①　Web based learning を開発し、本学の看護ネット上にコンテンツを集積･発信することにより、関東圏におけるがん看護の質向上に寄与できる。

②　教育連携病院との教育連携を強化することにより、がん専門看護師コース学生のクリニカルプラクティスの能力が向上する。併せて、教育連絡会の組織化により、連携病院間におけるがん看護質向上の組織連携がすすむ。

③　がん看護交流ワークショップの開催により、３大学間におけるがん看護実践能力開発に関する学術交流が深まり、最新のがん看護の知見をシェアし、均一に得ることができる。

④　シミュレーションラボにおける演習により、学生のがん看護高度実践能力としてアセスメント、根拠に基づく実践力の向上を得る

⑤　海外ノマディック演習を導入することにより、海外の最新の知見にもとづく実践能力の涵養が図られる。

⑥　インテンシブコースによる事例検討、コンサルテーション事業により、認定試験への着実な準備ができ、合格を確かなものにできる。

⑦　がん化学療法認定看護師コース開講により、がん看護の質の底上げとがん看護専門看護師教育課程希望者の裾野を広げる。